

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成27年1月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775801935		
法人名	株式会社 ライフパートナー		
事業所名	グループホーム アムール平野		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市平野区背戸口1丁目12番10号		
自己評価作成日	平成27年1月5日	評価結果市町村受理日	平成27年4月1日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.ph
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの方が、その人らしく穏やかな日々を過ごして頂けるようにと考えながら、できるところはご自分で、できないところ・わからないところはお手伝いさせて頂いて、お互いに助け合いながら、支え合いながら暮らして頂けるよう支援しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成27年1月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「グループホームアムール平野」は大阪市営地下鉄谷町線平野駅から徒歩10分の静かな住宅地にある。事業所は3階建てビルの2階と3階にあり、1階には診療所と薬局がある。「いつまでも自分らしく」の法人理念の基本を大切に、個人を尊重した暮らしが出来るように実践している。ペットの犬も一緒に入居し、リビングで他の利用者と一緒に面倒をみたり、散歩に出かけるなど以前の生活を継続できる支援を積極的に行っている。

人材育成として法人内にキャリアアップ研修制度を設けて、年間を通じて様々な研修を受講し、実践に繋げている。

利用者や家族の意見・要望などは、「語り口調のまま記録する」という手法を取入れ、他の職員もその真意や程度などの細かなニュアンスを読み取れるような工夫をしている。利用者・家族の意向を尊重しターミナルケアを積極的に行っており、24時間体制で医師・看護師・介護職員と連携を図り実践している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価2階ユニット	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念と共に、サブ理念とも言える「愛と自由がある暮らし、自分らしくいつまでも」の「自分らしく」を大切に個性を尊重できる支援の実践に努めている。</p>	<p>法人理念を各フロアの出入口に掲示し、職員は研修を受け法人理念の理解を深めている。事業所独自のサブ理念を事務所内に掲示し、全職員で確認している。管理者は、毎月の全体会議で月間目標を発表し、実践的なケアに活かしている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>地域の方から50インチのテレビを頂戴した他、「アムールさんで使ってもらえる？」と声をかけて頂き、オムツ類や日用品も頂戴している。「アムールさん」と気にかけて頂ける関係が出来ている。迷い犬があり、近所の方と協力して飼い主を探した。</p>	<p>町会に加入し、地域の食事会のお知らせがあれば利用者と共に参加している。また、職員は近隣マンションの消防訓練へ参加するなど、周辺住民の方からも「アムールさん」と気軽に声をかけてもらえる関係が出来ている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域包括支援センターや総合相談窓口(ブランチ)と常に情報の交換をさせて頂き、早期に対応できるように心がけている。</p>	/	/
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業所の報告をさせて頂くだけでなく、事業所から地域の方への勉強会等をさせて頂き、少しでも地域の方に来て頂いて意味のある内容であるように工夫している。会議後は、お茶を飲んで頂きながら、コミュニケーションをとって頂く場となっている。</p>	<p>運営推進会議は2カ月に一回開催している。町会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域婦人会部長、地域福祉活動コーディネーター等が参加し、事業所の活動報告、地域行事や提案・助言等を受け、双方が活発な意見交換が出来る場となっている。議事録により職員間で情報共有し、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。</p>	<p>利用者の家族等の参加がみられず、今後も呼び掛けていくことが望ましい</p>

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市町村への報告・相談は常時実施している。法令に基づいて適切に運営できるように助言を頂いている。</p>	<p>市町村の担当者とは、法令遵守に関する質問や介護保険制度の疑問などを積極的に問い合わせ、関係性を構築している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関が1階に独立してあるため、防犯上施錠している。身体拘束についての勉強会も毎年必ず実施する中で、スピーチロック等ということが身体拘束に当たることかを、理解している。</p>	<p>全体会議の中で身体拘束に関する研修を年1回行っている。スピーチロックの意味を理解し、身体拘束のないケアの実践に向けて職員間で話し合っている。1階玄関ドアは防犯上施錠しているが、利用者の希望あれば職員の同行で出かけることができる。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内の研修で毎年実施している。スタッフのメンタルヘルスにも留意し、メンタルヘルスに関する資料を設置し、会議で周知し不安を一人で抱えることの無いように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>宗教上の教えから、医療行為の中で実施できないことがある方がいらっしゃるが、周囲の方と相談しながら、その方の権利を守っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項を説明し、ご理解頂けたことを確認し同意を得たのち、契約をさせて頂いている。リスクになって行きそうな状態についても、ご家族と相談し、相互理解をもって安定した生活が継続できるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様から意見がある場合は、十分な時間をとって話し合っている。ホームとご家族の見解に相違が無いように努めている。</p>	<p>利用者や家族等の意見・要望は、家族等の訪問時に職員が声をかけ、聴き取っている。面会カードに意見記入欄を設けるなどの工夫を図り、意見聴取に努めている。</p>	

11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	朝礼・終礼は報告のみの場ではなく、ミニカンファレンスの場になっており、スタッフの不安の早期解決に努めている。1ヶ月に1回の全体会議時には、スタッフ1人1人の意見を求めている。	管理者は、毎日の朝礼や終礼時、月一回の全体会議で一人ひとりの意見を聴取し、職員が気軽に相談出来る雰囲気作りや働きやすい職場環境の実現に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件規程を設け、キャリアアップの為に計画書を作成、周知し目標や給与を明確にしている。スタッフ個人の家庭の状況にも配慮した勤務表を作成している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のために柔軟に対応し勤務して頂いている。法人のスケールメリットを活かし、力量に応じた配置や役割りを検討できている。		
14		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大阪市GHネットワークに参加している。管理者が他の事業所に訪問する際にはスタッフが同行し、勉強する機会になっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や見学の際には、その方と目と目を合わせて関わることを優先し、その場で一つ一つを記録し、本人の緊張する時間にしてしまわない様になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは、ご家族様の不安の傾聴に努めている。ご家族や本人の状況に応じて、ホームでできる支援を開始している。		

17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>前任のケアマネさんからの情報やご家族の訴え等から、各職種のチームで話し合い、必要な支援を提供している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者スタッフと共に生活し支え合える関係を作ることが共同生活介護の本質であることを、研修会や会議等で周知しスタッフは理解している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>大きな体調の変化時には、ご家族同伴にて受診して頂いている。ご家族様は本人様にとって大切な存在であることを伝え、ホームと共に支えている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>宗教の支援をホームがすることは無いが、本人が大切に考えておられる内容については、継続して頂ける様に、ホームで出来る範囲の協力はしている。</p>	<p>一人ひとりの生活習慣を尊重し、近所の美容院やスーパーマーケット等へは職員が付き添って出かけている。入居前からの友人の訪問もあり、今までの関係が継続できるよう支援している。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>フロアーにテレビを2台づつ置き、気の合った方々とのゆっくりと過ごせる場所作りに努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスの終了はほぼターミナルとなるため、お葬式への参列が最終と関わりとなる。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの友人間同士でのコミュニケーション時に聞こえた内容が、本人の心の声である場合があるため、記録・検討しできる改善策を考えている。	利用者同士の何気ない会話や食事の団欒時の会話など、利用者の話口調をそのままカルテに記入し、その方の思いが把握できるように工夫している。意思疎通が困難な方は、家族や生活歴から情報を得るようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族様、ケアマネージャー、訪問看護師など、その方に関わって来られた方々から情報を頂き、これまでの生きて来られた歴史を知ることが、その方を知る事でもあり、その頂いた情報をスタッフ間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に応じて対応出来るよう、記録は充実したものとなっている。朝礼・終礼での報告で、対応すべき内容があれば、即刻対応している。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特に退院時等の大きな身体の変化が考えられる状態においては、退院時すぐにご家族を交えてカンファレンスを実施し、その状態に応じた介護計画を作成している。	毎月のモニタリングにより、心身状況の変化や利用者・家族のニーズに応じて、カンファレンスを開き、介護計画を作成している。カンファレンスに参加できない家族には訪問時や日々の連絡の中で思いや意向を聴き取っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAPに基づいた記録をし、本人の声、体調を拾いあげ情報の収集、分析、評価を実施しながら介護計画を作成している。本人の身体(体重・既往症)に応じた水分量・食事形態等も個別に決まっており、記録を確認しながら実践している。	

28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>地域の民謡の会、音楽療法等のインフォーマルなサービスや訪問看護、歯科等のフォーマルなサービスを活用し、サービスの多機能化に努めている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議を通して、地域活動の参加の機会を頂いている。月に2回 地域の民生委員の方が民謡のお稽古にきて下さっている。歯科の協力により音楽療法もできている。</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>1階の松田クリニックのDrが、1日1回はホームに足を運んで下さって日々の体調を細やかに把握して頂いている。病気に応じて適切な医療機関との協力を得ながら、本人やご家族の希望に沿った対応をしている。緊急な場合は、休日や夜間でも相談させて頂いている。</p>	<p>ほとんどの利用者が入居時に1階のクリニックの医師をかかりつけ医としている。一人ひとりの体調に合わせてほぼ毎日往診がある。眼科や婦人科等専門の検査が必要な場合は家族が付き添って受診している。家族やかかりつけ医から聴き取った受診結果は、個人ファイルに記録している。</p>	
31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中にとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師をホームのスタッフとして配置しており、日常的に本人の様子を記録し、体調の変化時は直ぐにDrに報告し対応して頂いている。また必要時は訪問看護を活用し、安心できる生活の支援に努めている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には、ホームでの生活の状況を伝えるために、当日中にサマリーを作成しお渡ししている。入院中も医療機関と情報交換し、早期に受け入れられる体勢を作っている。</p>		

33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点で「重度化した場合の対応及び看取りに関する対応に係る指針」を示しご同意を頂いている。実際にターミナルの段階となった場合は、Dr・ご家族・ホームで協力し、本人にとって必要な支援を考えている。	入居時の契約の際に、「重度化した場合の対応及び看取りに関する対応に係る指針」を提示し、同意のサインをもらっている。かかりつけ医と連携し、本人や家族の希望に添えるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、ホームの看護師の実践による研修会を開いている。24時間のオンコール体制で急変時・事故発生時の対応に当たることが出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間設定と日中設定の避難訓練を実施している。運営推進会議では、災害について話す機会があり、町会長の連絡先も、災害時の連絡先に入れて頂いている。	同じビル内の診療所と薬局と合同で共同防火管理者を1名配置し、年2回共同で避難訓練を行っている。内1回は消防署立会いのもと、日中・夜間の実践的な避難訓練を行っている。緊急時の連絡先として町会長の登録があり、町会との協力体制がとれている。災害に備えて米、飲料水、カップ麺、オムツ等を備蓄している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシー保護、権利擁護についての研修は、毎年実施している。マニュアルを目の届くところに掲示し、日々心がけるように指導している。	接遇や権利擁護に関する研修は、法人で毎年実施している。受講した職員が事業所内の全体会議でその内容を報告し共有している。利用者の何気ない話口調をそのまま記録し、一人ひとりの人格を理解し、対応の仕方を職員で話し合っている。個人ファイルは事務所の鍵がかかる書庫に保管している。	
----	----	---	--	---	--

37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者様に寄り添い、世間話等の何気ない会話の中から本人の希望等を汲み取り、自己決定して頂いている。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その方の生活歴、性格、他の方との関係性を考慮し、一人ひとりの生活観を大切にしている。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>清潔な服装で過ごして頂くことは勿論、女性は女性らしく、アクセサリー等で華やかさを表出できるようにされている様子を、ご家族と共に支援している。</p>		
40	<p>15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の時間は、スタッフと会話をしながら過ごす大切な時間となっている。「今日のこれは美味しいね」「これ美味しくないね」と笑いながら話し、味付けはどうしたら美味しいかな等の意見を貰っている。</p>	<p>メニューは法人の栄養士が作成し、業者から仕入れた食材を職員が調理している。食事中はテレビはつけず、邪魔にならない音量で、流行のポップスやジャズ等を流し、職員と一緒に食事をしている。利用者は配膳・下膳、ランチョンマットの片付けなど、能力に応じて一緒に行っている。事業所内では、節分のちらし寿司や納涼会の流しそうめんなど、季節を感じる食事を企画し、誕生日には希望のメニューが食べられるよう、外食も行っている。</p>	
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの喫食率を確認し、低い場合はDrと相談し、必要な栄養量の確保に努めている。お体の状態(体重や既往症)によって水分の必要量も違うため、毎日計算して次の勤務者に引き継いでいる。</p>		

42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔内の清潔の重要性をスタッフは十分に理解しており、個別の口腔ケア方法を考え対応している。</p>		
43	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンを把握し、その方に応じた排泄の支援を行っている。夜間頻尿でトイレが気になって仕方がない方には、安心感のためにポータブルを設置している。</p>	<p>排泄は、出来るだけ利用者の持っている力を活かし、自尊心を損なわない声かけや見守りをする事で、自立に向けた支援をしている。夜間頻尿の方には、不安なく眠れるようポータブルトイレを使用している。自力で排便できない場合には、マッサージを施すことでトイレでの排泄を支援している。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>一人ひとりの排便量や形態、頻度も把握し、Drに相談しながら適切に対応している。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一人ひとりに応じた入浴の支援の形がある。皮膚状態の観察や対応が必要な方は、ナースにて対応し、必要に応じた処置を行っている。</p>	<p>各フロアーに個浴があり、一人ひとりお湯を入れ替えている。重度の利用者でもシャワーキャリーは使用せず、職員2人で介助をしている。体調により足浴や清拭に変更したり、入浴剤を使って雰囲気を変えながら入浴を楽しむ支援をしている。入浴は基本的に午後の時間帯で、同性介助を希望する利用者には希望に添った対応を行っている。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の体調に合わせて休息の時間を作っている。また不眠時はその理由を探り、スタッフDrと協力して、安眠の為の支援をしている。</p>		

47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>お薬の追加・変更がある場合は、副作用で起こりうる状態について申し送り、適切な服用支援に努めている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>針仕事がお得意である方にはお針箱、ミシン掛けがお得意な方にはミシン、またコントラバスの演奏がお得意な方にはコントラバス等とお得意であった腕を活かして頂ける様に、ご家族の協力を頂きお部屋に用意して頂いている。</p>		
49	<p>18</p> <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>町会の食事会や餅つき等に参加させて頂いている。女性同士で近所のファミリーレストランまでおやつを食べに出かけている。重度化に伴い、外出が難しい方も増えてきている。</p>	<p>町会主催の食事会に出かけたり、食材の買い出しやドラッグストアでの買い物に、車椅子でも出かけられるよう支援している。おやつを食べに近隣のレストランに行くこともある。職員と一緒に犬の散歩に出かけていたこともある。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>女性利用者様の間で、お部屋からフロアーに来る際に手提げかばんを持って来ることが流行っており、時々財布を出してお金を数えておられる姿がある。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご希望や訴えがあった場合には、ホームの電話を利用頂いている。住所がホームにある方は、ダイレクトメール等も届くため、お部屋までお届けしている。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>加湿器からアロマの香りが漂い、心落ち着く空間となるよう工夫している。温度・湿度の管理は、マニュアルに沿って適切に実施している。天気の良い日にはテラスで風を感じながらお茶を楽しんでいる。</p>	<p>広いリビングには、L字型のソファがあり、利用者同士が会話しやすい空間になっている。温度や湿度の管理と共に、リラックスできるような香りや音楽を流している。リビングからテラスに出ることができ、外の景色を眺めながらベンチでお茶を飲んだり、毎年春になるとカーネーションの苗を植え、成長を楽しんだりしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースに多くの腰を掛けられる場所を用意している。気の合う方と過ごせる様、また、気兼ねなく一人で過ごせる時間も持てる様に工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご相談の段階から、使い慣れた家具やお好きな置物でお部屋を本人の居心地のいい空間に出来るように、ご家族様と話し合っている。ADLの低下時等は、相談してレイアウトを考えている。</p>	<p>エアコン、カーテン、洗面台、ベッド、布団類は事業所で用意している。利用者は使い慣れた家具を持ち込み、家族との思い出のものや写真を飾るなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。身体能力に応じてベッドの高さを調整したり、夜間転落の恐れがあればベッド横にマットを敷くなど、危険のないよう配慮している。加湿器は家族が持参し、部屋の温度や湿度も状態に合わせて調整している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各所に手すりを整備している。床はクッションフロアを採用し、転倒時の衝撃を少なくする工夫をしている。その他、居室の環境整備、福祉用具の検討をすることにより、本人が自分の力で生活できるように配慮している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価 3階ユニット	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と共に、サブ理念とも言える「愛と自由がある暮らし、自分らしくいつまでも」の「自分らしく」を大切に個性を尊重できる支援の実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方から50インチのテレビを頂戴した他、「アムールさんで使ってもらえる？」と声をかけて頂き、オムツ類や日用品も頂戴している。「アムールさん」と気にかけて頂ける関係が出来ている。迷い犬があり、近状の方と協力して飼い主を探した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや総合相談窓口(ブランチ)と常に情報の交換をさせて頂き、早期に対応できるように心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の報告をさせて頂くだけでなく、事業所から地域の方への勉強会等をさせて頂き、少しでも地域の方に来て頂いて意味のある内容であるように工夫している。会議後は、お茶を飲んで頂きながら、コミュニケーションをとって頂く場となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村への報告・相談は常時実施している。法令に基づいて適切に運営できるように助言を頂いている。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関が1階に独立してあるため、防犯上施錠している。身体拘束についての勉強会も毎年必ず実施する中で、スピーチロック等ということが身体拘束に当たることかを、理解している。</p>		
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内の研修で毎年実施している。スタッフのメンタルヘルスにも留意し、メンタルヘルスに関する資料を設置し、会議で周知し不安を一人で抱えることの無いように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>宗教上の教えから、医療行為の中で実施できないことがある方がいらっしゃるが、周囲の方と相談しながら、その方の権利を守っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項を説明し、ご理解頂けたことを確認し同意を得たのち、契約をさせて頂いている。リスクになって行きそうな状態についても、ご家族と相談し、相互理解をもって安定した生活が継続できるように努めている。</p>		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様から意見がある場合は、十分な時間をとって話し合っている。ホームとご家族の見解に相違が無いように努めている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>朝礼・終礼は報告のみの場ではなく、ミニカンファレンスの場になっており、スタッフの不安の早期解決に努めている。1ヶ月に1回の全体会議時には、スタッフ1人1人の意見を求めている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>キャリアパス要件規程を設け、キャリアアップの為の計画書を作成、周知し目標や給与を明確にしている。スタッフ個人の家庭の状況にも配慮した勤務表を作成している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得のために柔軟に対応し勤務して頂いている。法人のスケールメリットを活かし、力量に応じた配置や役割りを検討できている。</p>		
14		<p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>大阪市GHネットワークに参加している。管理者が他の事業所に訪問する際にはスタッフが同行し、勉強する機会になっている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面接や見学の際には、その方と目と目を合わせて関わることを優先し、その場で一つ一つを記録し、本人の緊張する時間にしてしまわない様になっている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>まずは、ご家族様の不安の傾聴に努めている。ご家族や本人の状況に応じて、ホームでできる支援を開始している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>前任のケアマネさんからの情報やご家族の訴え等から、各職種のチームで話し合い、必要な支援を提供している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者とスタッフが共に生活し支え合える関係を作ることが共同生活介護の本質であることを、研修会や会議等で周知しスタッフは理解している。</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>大きな体調の変化時には、ご家族同伴にて受診して頂いている。ご家族様は本人様にとって大切な存在であることを伝え、ホームと共に支えている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	宗教の支援をホームがすることは無いが、本人が大切に考えておられる内容については、継続して頂ける様に、ホームで出来る範囲の協力はしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアーにテレビを2台づつ置き、気の合った方々とのゆっくりと過ごせる場所作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了はほぼターミナルとなるため、お葬式への参拝が最終と関わりとなる。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの友人間同士でのコミュニケーション時に聞こえた内容が、本人の心の声である場合があるため、記録・検討しできる改善策を考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族様、ケアマネージャー、訪問看護師など、その方に関わって来られた方々から情報を頂き、これまでの生きて来られた歴史を知ることが、その方を知る事でもあり、その頂いた情報をスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に応じて対応出来るよう、記録は充実したものとなっている。朝礼・終礼での報告で、対応すべき内容があれば、即刻対応している。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>特に退院時等の大きな身体の変化が考えられる状態においては、退院時すぐにご家族を交えてカンファレンスを実施し、その状態に応じた介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>SOAPに基づいた記録をし、本人の声、体調を拾いあげ情報の収集、分析、評価を実施しながら介護計画を作成している。本人の身体(体重・既往症)に応じた水分量・食事形態等も個別に決まっており、記録を確認しながら実践している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>地域の民謡の会、音楽療法等のインフォーマルなサービスや訪問看護、歯科等のフォーマルなサービスを活用し、サービスの多機能化に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議を通して、地域活動の参加の機会を頂いている。月に2回 地域の民生委員の方が民謡のお稽古にきて下さっている。歯科の協力により音楽療法もできている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>1階の松田クリニックのDrが、1日1回はホームに足を運んで下さって日々の体調を細やかに把握して頂いている。病気に応じて適切な医療機関との協力を得ながら、本人やご家族の希望に沿った対応をしている。緊急な場合は、休日や夜間でも相談させて頂いている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師をホームのスタッフとして配置しており、日常的に本人の様子を記録し、体調の変化時は直ぐにDrに報告し対応して頂いている。また必要時は訪問看護を活用し、安心できる生活の支援に努めている。</p>		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院しに際、女心しく治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、ホームでの生活の状況を伝えるために、当日中にサマリーを作成しお渡ししている。入院中も医療機関と情報交換し、早期に受け入れられる体勢を作っている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点で「重度化した場合の対応及び看取りに関する対応に係る指針」を示しご同意を頂いている。実際にターミナルの段階となった場合は、Dr・ご家族・ホームで協力し、本人にとって必要な支援を考えている。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、ホームの看護師の実践による研修会を開いている。24時間のオンコール体勢で急変時・事故発生時の対応に当たることが出来ている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間設定と日中設定の避難訓練を実施している。運営推進会議では、災害について話す機会があり、町会長の連絡先も、災害時の連絡先に入れて頂いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシー保護、権利擁護についての研修は、毎年実施している。マニュアルを目の届くところに掲示し、日々心がけるように指導している。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に寄り添い、世間話等の何気ない会話の中から本人の希望等を汲み取り、自己決定して頂いている。		

38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その方の生活歴、性格、他の方との関係性を考慮し、一人ひとりの生活観を大切にしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>清潔な服装で過ごして頂くことは勿論、女性は女性らしく、アクセサリ等で華やかさを表出できるようにされている様子を、ご家族と共に支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の時間は、スタッフと会話をしながら過ごす大切な時間となっている。「今日のこれは美味しいね」「これ美味しくないね」と笑いながら話し、味付けはどうしたら美味しいかな等の意見を貰っている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの喫食率を確認し、低い場合はDrと相談し、必要な栄養量の確保に努めている。お体の状態(体重や既往症)によって水分の必要量も違うため、毎日計算して次の勤務者に引き継いでいる。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔内の清潔の重要性をスタッフは十分に理解しており、個別の口腔ケア方法を考え対応している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンを把握し、その方に応じた排泄の支援を行っている。夜間頻尿でトイレが気になって仕方がない方には、安心感のためにポータブルを設置している。</p>		

44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便量や形態、頻度も把握し、Drに相談しながら適切に対応している。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりに応じた入浴の支援の形がある。皮膚状態の観察や対応が必要な方は、ナースにて対応し、必要に応じた処置を行っている。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて休息の時間を作っている。また不眠時はその理由を探り、スタッフDrと協力して、安眠の為の支援をしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の追加・変更がある場合は、副作用で起こりうる状態について申し送り、適切な服用支援に努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	針仕事がお得意である方にはお針箱、ミシン掛けがお得意な方にはミシン、またコントラバスの演奏がお得意な方にはコントラバス等とお得意であった腕を活かして頂ける様に、ご家族の協力を頂きお部屋に用意して頂いている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	町会の食事会や餅つき等に参加させて頂いている。女性同士で近所のファミリーレストランまでおやつを食べに出かけている。重度化に伴い、外出が難しい方も増えてきている。		

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>女性利用者様の間で、お部屋からフロアに来る際に手提げかばんを持って来ることが流行っており、時々財布を出してお金を数えておられる姿がある。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご希望や訴えがあった場合には、ホームの電話を利用頂いている。住所がホームにある方は、ダイレクトメール等も届くため、お部屋までお届けしている。</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>加湿器からアロマの香りが漂い、心落ち着く空間となるよう工夫している。温度・湿度の管理は、マニュアルに沿って適切に実施している。天気の良い日にはテラスで風を感じながらお茶を楽しんでいる。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースに多くの腰を掛けられる場所を用意している。気の合う方と過ごせる様、また、気兼ねなく一人で過ごせる時間も持てる様に工夫している。</p>		
54	20 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご相談の段階から、使い慣れた家具やお好きな置物でお部屋を本人の居心地のいい空間に出来るように、ご家族様と話し合っている。ADLの低下時等は、相談してレイアウトを考えている。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各所に手すりを整備している。床はクッションフロアを採用し、転倒時の衝撃を少なくする工夫をしている。その他、居室の環境整備、福祉用具の検討をすることにより、本人が自分の力で生活できるように配慮している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない